

悔いのない青春

趙一丹

この文章を書く目的は、一つがこれから日本にくる後輩の皆さんに自分の経験を少し伝える、もう一つは日本語学校にいる間にお世話になった先生方と友人の皆さんに感謝の意を表すことです。

私は中南林業大学日本語学科を卒業しました。大学三年生の時、大学の提携校亜細亜友之会外語学院で一年間の留学生活を送りました。その当時は、日本語能力試験N1合格という目標だけがあって、特に進学プレッシャーなどは何もありませんでした。アルバイトのほかに、旅行したり、お茶の稽古をしたり、日本の生活を満喫しました。大学を卒業したら、また日本に来て日本の大学院に進学したいとその時から思っていました。

大学三年生の時から、亜細亜の先生方の熱心さと厳しさ、そして生活面での行き届いた配慮を自ら経験したので、大学卒業後、迷わず亜細亜友之会外語学院の大学院進学コースに入学することにしました。この9ヶ月間の受験勉強は三年生の時ののんびりした生活とは全く異なります。日本語学科卒業の私にとっては、日本語教育に関連する教育学、言語習得、言語学などの知識は全く持っていませんでした。7月生としては、受験準備の時間が非常に短いです。日本に来たばかりの7月中旬はある学校の一期の入試が既に始まっていました。短い時間の中で、先生方のおかげで、効率よく研究計画書を完成させました。大学院受験生にとって、研究計画書は如何に重要なかは言うまでもありません。研究計画書のテーマを定める前に、希望する教授の著書と論文をよく読んで、教授の研究分野に近いテーマにしたほうが合格する可能性が高まると思います。

とても恥ずかしい話ですが、本格的な筆記試験の受験勉強を始めたのは出願後の1月からでした。『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』という本を繰り返し読みました。読んだだけではなく、重要な専門用語と定義などは必ず例と一緒に覚えて、自分の言葉で説明できるようにならなければなりません。そのほかに、希望する上智大学の小柳教授の第二言語習得に関する書籍も読んでいました。正直に言って、理論性が強く理解しにくい本だったのですが、我慢に我慢を重ね最後まで読み終わりました。また、筆記試験の受験勉強のため、『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』という本を独学しました。この本は『日本語教育事典』と比べると、専門用語の数と説明文の長さはまだまだ少ないほうです。この本にある専門用語などを覚えたら、筆記試験はほぼ問題がないと思います。面接の時は、自分が絶対にこの学校に入りたいという気持ちを全面的にアピールしたほうがよいと思います。研究計画書に関して、全く答えられないことを質問されたら、落ち着いて「まだ考えています」と答えても構わないと思います。

最後になりますが、専門知識と研究計画書について指導して下さった楊先生、宮原先生、ずっと応援して励まして下さった石川先生、本当にありがとうございました。20代前半の時は、若さだけが我々の唯一の武器だと思います。若いので、何かミスしてもやり直しができますので、自分の可能性を無限大に広げてください。これからも一緒に頑張りましょう。

2015年2月